第６章 大津の農業、こんなことします（具体的取り組み）

1 「人をつくり、仲間をつくる」
―― 育てよう！次代を拓く担い手の輪

大津市の農業を支える上で最も重要なのは毎日田畑をたがやす生産者のみなさんです。そこで、本ビジョンでは「人づくり」に重点をおいた取り組みを行います。

こうした取り組みを通じて、市場への出荷を主とする大～中規模の生産者（販売生産者）と自家消費を中心とする生産者（自給的生産者）がともに活躍できる、新しい農業のありかたを目指します。

基本施策

❶.「販売生産者」を育て、「自給的生産者」を守ります
❷. 女性生産者の活躍の場を増やします
❸. 定年帰農者や若手生産者を積極的にサポートします
❹. 生産技術や経営技術をさらに高めます
❺. 生産者同士の交流を深め、仲間を増やします
❻. 次世代の生産者を集め、育てます

大津市のチャレンジ！

●市内の各地域で農業を支える生産者を対象に、「農業経営改善計画」の作成ならびに認定をサポートします！

【認定農業者の数】

現　状	目　標		
2016年 11月末現在	2021年（1期）	2025年（2期）	2029年（3期）
27名	31名	35名	39名

市民のみなさんも参加しよう！

●市内の生産者が直接指導する短期就農体験※に参加しよう！
●市内で農作業のアルバイトにチャレンジしよう！

※市役所を中心に今後設置に向けて検討の予定です。

■具体的取り組み（これらの取り組みは関係機関と協議の上、優先順位をつけて取り組みます。）

基本施策	具体的取り組み	備考
1. 「販売生産者」を育て、「自給的生産者」を守ります	① 地域内で話し合いを進め「人材ノート」を作り、地域における将来の担い手をイメージしてもらいます。	
	② 今後の地域を支えていく生産者を対象に、「農業経営改善計画」の作成ならびに認定をサポートします。	
	③ 市内の生産者ならびにその地域を対象に、「人・農地プラン」の作成に向けた話し合いを進めます。	
	④ 市内の集落営農ならびにその地域を対象に、さらに組織化ならびに法人化に向けた話し合いを進めます。	
	⑤ 集落営農法人同士のネットワーク化を進め、農業経営のさらなる効率化と安定化を進めます。	
	⑥ 集落営農法人の取り組みに対して積極的な支援を行います。	
	⑦ 市内の兼業農家の様子や市内で就農するためのステップをウェブサイトなどを通じて発信します。	
	⑧ 滋賀県農林漁業担い手育成基金と連携し、就農相談窓口を設置して、周知をはかります。	
2. 女性生産者の活躍の場を増やします	① 味噌づくり体験会や米粉利用キャンペーンなど、食育の場を市内に増やします。	
	② 「人・農地プラン」の作成にあたり女性生産者の参加をうながします。	
	③ 「家族経営協定」制度について周知をはかり、協定を結ぶサポートをします。	
	④ 企画立案や起業に関する研修会などを開催し、女性の視点を活かした6次産業化に取り組みます。	
3. 定年帰農者や若手生産者を積極的にサポートします	① 市内の兼業農家の様子や市内で就農するためのステップをウェブサイトなどを通じて発信します。	再掲
	② 滋賀県農林漁業担い手育成基金と連携し、就農相談窓口を設置して、周知をはかります。	再掲
	③ 新規就農者が農業をスタートするために必要となる資金計画の技術的なサポートを行います。	
	④ 滋賀県農林漁業担い手育成基金と連携し、新規就農者に対して、市内農地の紹介をします。	
	⑤ 市内の先輩生産者などを「おおつ農業親方（仮称）」に任命し、若手生産者に技術指導を行います。	
	⑥ 滋賀県農業大学校への就学や、県農業技術振興センターの仲介を通じて、技術向上をサポートします。	
	⑦ より低コストな就農のために、中古の農業用機械や共同利用などの導入を積極的にサポートします。	
4. 生産技術や経営技術をさらに高めます	① 勉強会の開催や県農業技術振興センターなどの指導をより活発に行い、大津市産農産物の品質向上を進めます。	
	② 農作業時の事故ゼロを目指して、安全意識・技術をさらに高めます。	
	③ 市内直売所やイベントなどによる消費者との交流を通じて、大津市産農産物の評価を把握し、次の生産計画につなげます。	
	④ 簿記や税務についての共同勉強会を開催し、「青色申告」の普及を徹底します。	
5. 生産者同士の交流を深め、仲間を増やします	① 集落営農法人同士のネットワーク化を進め、農業経営のさらなる効率化と安定化を進めます。	再掲
	② 新規就農者や若手生産者を対象とした活動発表会を定期的に開催し、情報の共有を進めます。	
	③ イベントや研修会などを通じて、女性生産者間のネットワーク化をはかり、6次産業化などにチャレンジします。	
	④ 特に新規就農者を中心として、SNSなどによる生産者間のネットワーク化をはかり、農業が続けられる環境をつくります。	
6. 次世代の生産者を集め、育てます	① 農業の関心を高めるために、市内の認定農業者などの指導による、大学生を含む市民向けの短期就農体験を行います。	
	② 人材バンク「おおつ農業支援隊（仮称）」に大学生やシルバー人材などを登録し、時給労働による生産者支援の仕組みをつくります。	
	③ 障がい者などが農業に携わる「農福連携」について事業計画や受入について検討します。	